

説明的文章は、それぞれの文章の構成や叙述の特徴をふまえながら、筆者の主張や願いを正しくつかみ、それに対して自分が何を考えたかをまとめるような練習を重ねることで、読み取る力、読んで考える力が付いてきます。

《ポイント》

1 文章全体の話題・提示されている問題をつかむ

語句や文末表現に着目してみよう！

「なぜ」「どうして」「…のはなぜだろう」等の語句や文末から、問題提起(提示)、つまり話題にしたいことや疑問を示して、これから何(どんなこと)を解決していこうとしているのかが分かるね。
繰り返し出てくる語句(キーワード)にも注目です。

2 形式段落ごとの内容を読み取る

具体例として述べられている部分を探してみよう。

「例えば」「…」を例に考えてみよう」等々、例を挙げて、具体的に分かりやすく説明することが多いね。
具体例から「何」を伝えようとしているかということ。その「何」が話題の中心だよ。

4 段落の役割や段落相互の関係を考える

段落の役割には次のようなものがあります。

話題を提示している。
分かりやすくするために、具体例を出して説明している。
ちがいがはっきりするように、いくつかのものを比べて示し説明している。
原因や理由・根拠を示している。

段落ごとの内容を理解し、それぞれの段落の役割や関係をとらえることが、一つのポイントだね



もつとも伝えたいこと(結論や主張)を述べている。

段落の役割や段落相互の関係をとらえるために…

接続語に注目し、話題が変わったり、具体的な例を示したりしていることをつかもう。
指示語の内容を正確にとらえ、段落相互の関係をつかもう。

5 文章全体の構成を考え筆者の一番伝えたいことをとらえる

説明的な文章の構成にはいくつかのパターンがあります。

頭括型 はじめに結論や主張を述べ、その後具体的に理由、説明を述べるパターン。

尾括型 はじめに具体例や理由、説明を述べ、最後に結論や主張を述べるパターン。

双括型 はじめと終わりに結論や主張を述べ、その間に具体例や理由、説明を述べるパターン。

結論部分を中心に、筆者がもつとも伝えようとしていることを読み取ってみよう。

6 筆者の考えや主張に対して自分だったらどう考えるか、どうするかをまとめて書いてみる

友達や下級生に内容を紹介するつもりで書いてみよう。

文章に書いてあることを紹介するだけでなく、自分の考えを盛り込むことで、
文章の内容を読み取れたか確かめることができるよ。

自分の考えを書いてまとめることに慣れてくると、読むことを通して、文章で話題にしていたことと、それに対する筆者の考えを参考にしながら、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようになります。

